

地域おこし協力隊とは

過疎や高齢化の進行が著しい地方に都市地域から移住を促し、地域活性に取り組む国の制度です。隊員を任命するのは各地方自治体であり、活動内容や条件・待遇などは自治体により様々。任期が定められていて、おおむね一年から三年とされています。この制度は、隊員が任期満了後もその地方へ定住・定着すること、都市部の人口集中・地方の過疎化を緩和させる狙いがあります。

定住した隊員の進路は、起業・就職・就農など様々。地域での発見や地域への愛着をもとに協力隊での活動と結びつきのある業界へ進む人が多いようです。私はどうしていいかな。

働き方の多様性が広がり、現在では七千人以上の協力隊が全国で活動しています。また、地方創生がキーワードとなり、受け入れを検討する地方自治体も増えてきています。

ここ江名地区は、令和5年に初めて地域おこし協力隊が配置されました。地域おこし協力隊を誘致するには、地域の問題を地方自治体と協議しながら受け入れ体制を整えていく必要があります。その時間を経て私が今ここにいると思うと、受け入れ団体である江名地区まちづくり協議会のみなさんの地域への思いをできるだけ丁寧に拾い上げて日々の活動に込めていけたらと思います。

江名地区 地域おこし協力隊 広報誌

海と町

Vo.1 2024.7

こんにちは。江名地区地域おこし協力隊です。この広報誌では、昨年度の活動や今後の取り組み、いま考えていることをご紹介します。

江名地区 地域おこし協力隊の活動内容

mission 1 【文化継承】

江名地区内で収集・保管されてきた漁具・船具を分類整理・記録し、後世に残していく活動を支援していきます。

mission 2 【ブルーツーリズム事業の構築】

「ブルーツーリズム」とは、港町ならではの体験を通して自然・文化に触れ、訪れた人にこの地域を楽しんでもらう旅のこと。江名地区での暮らしや魅力を体験できるような地域活動を支援していきます。

江名地区まちづくり協議会

「地域住民の誇れる郷土作り」に貢献することを目的とし、平成13年に設立。現在は文化伝統部会を軸として、漁具・船具・漁業に関する民具等の収集保管を行っています。東日本大震災の津波で半数以上を失ってしまいましたが、残ったものと更に収集したものを、改めてこの地域の文化的資料として後世に継承していくために分類整理作業を計画。令和5年に地域おこし協力隊を受け入れ、この活動がスタートしました。また、漁業の歴史の中で使用されたガラスの浮き玉を使い、網掛け技術の伝承も行っています。

文化継承 = 過去を守り懐かしむこと？

文化継承の活動を通して、学芸員の仕事や民俗学を学びはじめました。古いものなど時間の経過を感じられるものに惹かれる私は、日々その奥深さに圧倒されながらも面白さを見出しているところです。ここで、そもそも「文化を継承する」とは一体何なのかを咀嚼しておこうと思います。

何を？なんのために？そのための手段は？それがどんな効果をもたらすの？など、疑問がいっぱい。「文化」という大きな言葉をイメージだけで捉えず、今後の活動をより面白がるためのヒントを探しています。

カルチャー = 耕すこと

広辞苑を読んでもみると、現在の活動内容は③(cul-ture)にあたりますが、さらにculture(カルチャー)の語源を調べてみると、『ラテン語の cultura「耕作、農業」または比喩的に「世話、文化、敬うこと」からきています』という記載が。日本では「文化＝歴史や伝統」というイメージが強く、「文化継承」という言葉も“歴史や伝統を守り伝えていくこと”としてしか使われていないのでは…？

たとえ「カルチャー」が「文化」と翻訳されていても、「カルチャー＝耕すこと」つまりは“新しくつくり続けていくこと”の部分がかぼ意識されていないのかもしれない。

ぶんか【文化】
①文徳で民を教化すること。②世の中が開けて生活が便利になること。
文明開化。③(culture)人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容を含む。文明とほぼ同義に用いられることが多く、西洋では人間の精神的な生活にかかわるものを文化と呼び、文明と区別する。↔自然↓文明(広辞苑から引用)



こんなところに、港町カルチャー！

- 1 漁網にくる陶器の重り。気に入ったかたちを見つけたので我が家では歯ブラシ立てに。フラワーベースとして季節のお花と一緒に楽しむのもいいかも◎
- 2 大きなお魚がとれてサクで販売される地域らしさを感じる長い食品トレイ。東京のスーパーでは見かけなかったなあ。何かに使いたいけど、何がいいだろう？
- 3 植木鉢ならぬ植木樽！？お魚屋さんのロゴ入りスチロール箱とかにもよくお花が植えられていて、港町の暮らしを感じる良いコンビネーション。お散歩が楽しくなっちゃう。

何かを守りたいとき、私たちはつくっている。

例えば家族を守りたいとき、食べ物を買うためのお金をつくったり、家を建てたり。時間、場所、繋がりも必要。私がミッションとして守っていく江名地区の漁具も、食生活を支えるためにつくられたものです。

漁具は、暮らしを支えてきた「文化」を語るものでもあります。それを守っていくために、カルチャー＝新しくつくり続けていくことをする。新たな見方・在り方を探ってみる。文化継承を、そんな創造的な、クリエイティブな営みにできれば、この地域の暮らしが育んできたことが「文化」として誰かに伝わって、たくさんの人に大切にされていくのではないかと思います。きちんと学び、良さも理想も理解した上で、新しいものごとが生まれることにワクワクしたいです。

編集後記

今年は梅雨を感じなかったので突然のように夏が来ましたね。去年はUターン直後だったこともあり「いわきは涼しい！」という幼い頃の記憶を信じてエアコンなしで過ごした結果、1日にシャワーを3回浴びて水道代がものすごいことになりました。大反省。とはいえ、直前に住んでいた奈良は盆地の気候でじっとりした暑さだったので海風の気持ちよさに相当感動しています。Uターンしてきて、協力隊になって約1年半が過ぎました。早っ。目まぐるしい日々でした。環境も仕事も暮らしも変わって、とにかく身の周りで起きていることをインプットし続けて、高校生で止まっていたいわきでの記憶とのギャップを見つけるたびに、朝ドラの寅ちゃんのごとく「はて？」を繰り返す。当時は見えていなかったものが見えるようになったのかもと気づいた時に、この変化を、この環境を、おもしろがりたいと思うようになりました。今までは働くために借家でその地域に住んでいたけれど、地元はある程度の心地よさを知っているから、暮らすことを楽しんでいた。そう思って個人的には次のステップとして帰って来てみたいわき。暮らしを意識することで地域というものが見えてきて、そこで行われている営みを見る余裕が自分に出てきたことがとても豊かに思えました。

お魚が美味しいこの地域は漁業者の人たちによって支えられ、その漁業者さんを支えてきた道具に出会った私。なんにも知らなかったけど、知れてよかった。無くなってしまう前に出会えてよかった。今自分の視界にあるもののおもしろさを自分らしく表現して、発信していくことをしてみたいです。県内外にいる友人たち、これから出会う人たちに地元のカルチャーを知ってもらって、あわよくば、おもしろがり仲間になって欲しい。そこからまたこの地で新しくおもしろいものごとが生まれて、地域の活力になっていくといいなと思います。

「活力」で思い出しましたが、大変私事なのですが、この度子供を授かり9月末に出産を控えています。赤ちゃんのエネルギーというか、パワーというか、それがものすごいものだと言います。私自身と家族にどんなパワーを見せつけてくるのかとても楽しみです。協力隊としての活動は落ち着くまでしばらく休止しますこと、何卒ご理解ください。また、あたたかく見守っていただけますと嬉しいです。

江名地区 地域おこし協力隊 野村 史絵波（のむら しえな）

いわき市四倉町出身。福島県立いわき光洋高校を卒業。上京し、女子美術大学 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻に進学。卒業後は工芸技術を活かしたものづくりを行う奈良のメーカーに就職し店舗の店長を務める。気分でいわきにUターン。

いまは倉庫で静かに眠っている江名地区で収集されてきた漁具たち。それらをきれいに清掃や分類・整理して、`港町の歴史と暮らしを語り継ぐ文化財、として、多くの人に知ってほしい。漁業が衰退し、震災の影響も受けているこの海と、これからどんな風に向き合って、どんな暮らしができるのだろうか？ そんなことをみんなで考えていくための小さな資料館をつくります。漁具には、港町の暮らしの知恵や、私たちの食を支えるための工夫がいっぱい！ 地域の方々に話を聞きながら、宝探しのような気分で一緒に楽しく作業していただけるボランティアを募集しています。

内容：倉庫から作業場への運び出し / 漁具の清掃作業 / 分類整理作業 など

場所：いわき市江名地区内（複数ヶ所あり）

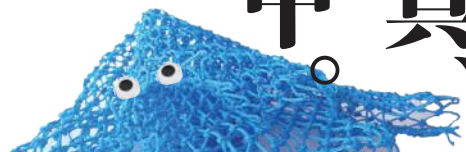
用意：汚れてもよい服装（長ズボン着用）、マスク、軍手

↓過去の活動記録・お問い合わせはこちらから

江名地区漁具資料館をつくるプロジェクト SNS

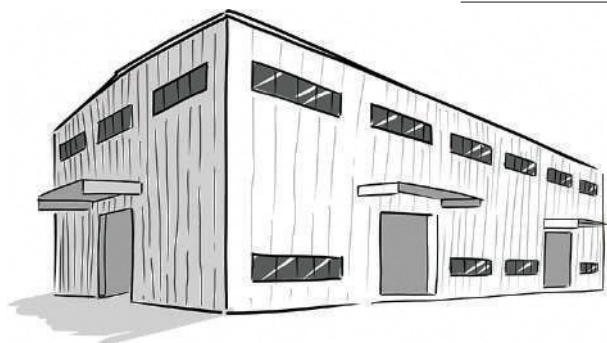


KNOW ABOUT US!



江名の漁具、 大そうじ中。 ボランティア募集

使っていない倉庫・工場跡を探しています。



江名地区漁具資料館をつくるプロジェクトは、漁具資料の保管・展示・発信するための場所を探しています。相当な物量のため、大きな倉庫または工場跡などの広いスペースが必要です。少しでもお心当たりのある方、ご紹介いただける方からの情報をお待ちしております。

▼情報のご提供はこちらまで

☎ 090-6482-7602 ✉ fumitoe.n@gmail.com

協力隊の1年間

4月～6月 地域散策と情報収集

まずはこの地域を知らなくちゃ。地域の方にご協力いただき地区内をぐるり1周。沿岸部と丘陵部があり、それぞれに自然を活かした暮らしと産業が根付いていることを知りました。

5月のお祭りで早速子どもたちとお神輿を担いでみたり海でサップに乗ってみたり、この地域での暮らしがスタート。

文化継承のミッションで漁具の分類整理作業を始めたところですが、学芸員の資格もなく、私にとっては今までやったこともない仕事です。何から始めたらいいのかさえわからない状況を打破すべく、0からの情報収集を開始。江名地区まちづくり協議会のみなさんが今まで収集保管してきた想いを聞き取りながら、県外の博物館に視察に行ったり資料を読みあさったり。江名地区の漁具の価値と可能性を私自身が見出すことから始まりました。



2023 4 > 5 > 6 > 7 > 8 > 9

7月～8月 イベントの支援

ミッションである「ブルーツーリズム」の一貫で地域の港を活用したイベントの企画を支援。7月はサップ・カヤックの親子体験、8月は港町の穏やかな暮らしを体験できる町歩きイベントを実施。安全対策やイベント自体の企画編集、コンセプトやロゴの作成を担当しました。いわきの海で遊ぶのは10代の頃以来。久しぶりに日焼けで真っ黒。



9月 漁具倉庫の移転準備

江名地区まちづくり協議会が保管してきた漁具の倉庫は地域内4ヶ所に点在しています。どうしたら安全かつ効率よく分類整理の作業を進められるだろう。具体的な計画を練り始め相談の結果、作業場として新たな倉庫を借りて、老朽化が進んでいる倉庫から順に1件ずつ漁具を移動させることにしました。

10月～ 漁具の分類整理作業が本格稼働

漁具の移動から分類整理作業がはじまりました。埃をかぶったいくつもの漁具・船具。正確な数は未だにわかりませんが、まずはとにかく1件目の倉庫から作業場へ運び出さなければなりませんでした。漁網、浮き、重り、延縄箆、釣り針、航海日誌などなど。小さなものから大きなものまで様々。これは力仕事になるし、人数が必要だ…。そんな状況からボランティアさんを集めることにしました。もちろん作業的に人数が必要だったこともありますが、それだけではありません。「地域（いわき）の産業を支えた道具」のことを、はたしてどれくらいの人知っているだろう？少なくとも平成初期生まれの私にとっては知らないものばかり。文字通り“継承”していくことを目指すなら、それらの漁具を知っている世代から、できるだけ多くの知らない世代に伝えてもらう必要があるのでは

はないか。興味を持ってくれる人口が増えるような仕掛けが必要だと思いました。おかげさまで現在まで参加してくださったボランティアさんは20人以上。大変な作業だけれど、興味を持ってくれたこと、関わり続けてくれていることを本当に感謝しています。

いろんな支えがあり、1件目の倉庫は運び出しが完了。今後は、ざっと見るだけで数千点以上ある漁具1点ずつに管理番号をふって情報を記録していく作業です。県内外の専門的な知識を持つ学芸員さんにもご協力をいただき、今後の作業行程や保管方法を検討していきます。

今はまだその価値を証明できる情報が集められていない状況ですが、今後の作業で徐々に“地域の誇り”としての明確な価値を見つけて、具体的にどういった目的と手段で継承していくのかを考えていくことが直近の目標です。

10 > 11 > 12 > 1 > 2 > 3



1月～3月
いわき市地域おこし協力隊の誘致活動協力

約一年間を通して、いわき市の地域おこし協力隊の実態ややってみたいことが見えてきました。過疎化・高齢化が進むなかで、いわきという地をどのように捉えて、どんな風に盛り上がってほしいかを活動を通して考えるようになりました。そこで、他の自治体の協力隊の話を聞いたり、リニューアルのタイミングだった協力隊誘致のチラシ・ポスターの作成を担当しました。